

子育て支援に
冷たい青木区政

保育園も学童保育クラブも足りません!!

学童クラブも早期増設を 史上最高62人はみ出し、 民営化の促進も

区内の学童保育クラブは、増える入所に定員の50人を超え70人を詰め込むなどの暫定定員をつくって対応してきました。

新年度は、26施設中20で定員を緩和しましたが、13の学童保育クラブで合計62人がはみ出しました（2月17日時点）。また、区立施設を次々と民営化する計画が進み、2017年4月には、中根小学校と宮前小学校の学童保育クラブが株式会社へ委託されます。経費と公務員削減を保育環境より優先する姿勢です。

区は、これまで「待機児がでる学童保育クラブは一部。偏在。対策で十分」「施設増設はしない」と放置してきました。ここまで悪化して「増設を検討せざるを得ない状況」と言い始めましたが、「新たな保育形態も検討」と答弁し、「目黒の豊かな学童保育が崩されるのでは」と心配の声が上がっています。

●保護者への経済的負担の押し付け

☆保育料値上げ

子育て世代のいちばんの悩みは「お金がかかること」。ところが、受益者負担、だといって、13年に認可保育園、学童保育クラブ、区立幼稚園、こども園の保育料を値上げ。新年度に、また値上げを検討する計画です。

☆奨学金制度の改悪

国は全国一律の制度としての公立高校の授業料無償制度を廃止し、所得制限のある就学支援金制度へと置き換えてしまいました。目黒区では公立高校の入学金を対象にした奨学金制度をなくしました。

認可保育園が足りないにもかかわらず、4園の区立保育園を来年から順次、廃止する計画です。「経費削減」だと称して民間の保育園にかえてしまいます。

認可保育園は区自身が責任をもち、園庭の環境整備など保育関係者と保護者が力を合わせて質の高い保育をつくらなくてはなりません。保護者の多くは、区立保育園の増設を望んでいます。区は建設をストップしたまま。区立も民間もともにたくさんの認可保育園をつくるべきです。

区立保育園はつくらず

「死ね」というのか！ 9人のママが不服審査請求

認可保育園に入園できなかったママたち9人が3月14日、不服審査請求を区に提出。「3歳になるので認証保育園を退園しなければならぬ。認可保育園に入らず、死ね」といわれているようだ。「目黒で育ち、やっぱり目黒に住みたいと戻ってきた。仕事の内で

が出て、就職も決まったのに保育園に入れない。子どもとの時間を大切にしたいのに保育園探しでくたくた。このままでは、仕事を失い、家計も維持できなくなる」と涙ながらに訴えました。切実な訴えにも区長は会おうとしませんでした。



不服審査書類を手渡すママたち



15年4月までに「待機児ゼロ」計画 棚上げ

目黒区内の認可保育園不足が深刻です。今年4月の認可保育園への第1次入園申し込みは、前年よりも95人多い1987人。しかし、申込者の56%にあたる1119人が入園できないという事態になっています。認可保育園待機児率でいえば、23区のなかで4年連続でワースト3に入っているのは目黒区しかありません。

そもそも目黒区は子ども総合計画で、15年4月の待機児童をゼロにすることを目標にしました。ところが、「緊急財政対策に取り組んでいる状況のもとでは直ちに施設を増やすことは困難である」と事実上、棚上げしました。今年4月に向けても、区は6つの認可保育園を整備する予定でしたが、実際は2園しか開設できず、近隣の品川区が10園整備したことと比べても大きな違いです。区政を転換し、認可保育園を直ちに増設させましょう。



日本共産党 目黒区議団ニュース

2016年春号

〒153-8573 目黒区上目黒2-19-15
TEL 03-3715-1111 (内線3030) FAX 03-5722-9344
メール jcpmkd@topaz.ocn.ne.jp ホームページ <http://www.jcpmkd.jp/>

ご意見をお寄せください

青木区政 の4年

区民の財産 くらし・福祉

JR跡地 売りとばす
**高齢者・障がい者の
紙おむつ代補助など**

ばつさりカット

青木英二区長の4年間の区政運営は、「財政危機」を乗り越えて区民に大きな負担を押し付ける問題点が浮かび上がりました。

2012年度から14年度までの3年間に、青木区長は「緊急財政対策」と称して、くらし・福祉をばつさりと削ってきました。高齢者や障がい者の紙おむつ代について、6300円まで無料だったものに自己負担を導入したり、障がい者用の借り上げバスを廃止するなど、「シロツクを受けた」などの声があがりました。

加えて、認可保育園や学童保育クラブ、区立幼稚園、こども園の保育料を値上げし、住区会議室や体育施設など施設の使用料を引き上げ、新たな負担を区民に押し付けてきました。国民健康保険料、介護保険料も引き上げています。さらに、区民が切実に望んでいる施設を十分

につくることのできる、8500㎡ある都と区の土地、JR跡地を民間へ売りとばしました。安倍内閣と同じように区民に負担を押し付けながら、「保育園を増やして」「家族介護は限界。施設に入所したい」という保育園や特別養護老人ホームなどの増設を望む切実な声に背を向けています。

さらに、施設使用料の値上げ検討

青木区長は、くらし支える施策を含めた切り捨てや、区民に負担を強いる区政運営について、「この取り組みを今後にかししていく」などと言っています。

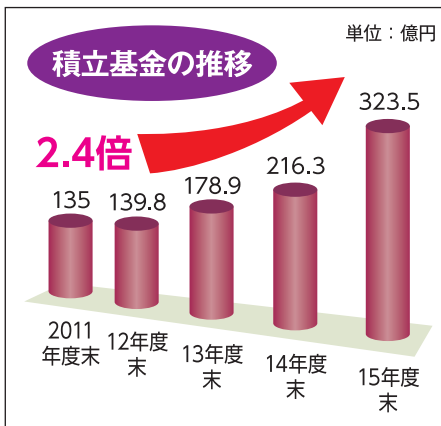
えながら福祉を向上させていくという地方自治体としての責務を放棄し、「公平性を保つため」「受益者が負担を負うのは当然」といって、16年度には保育料とともに、住区会議室や社会教育館、体育館、

ポニー園などの施設使用料の引き上げを検討するとしています。消費税増税や物価が上がり、実質賃金や年金が引き下げられている中で、それに追い打ちをかける計画は中止させましょう。

区民生活優先の区政へ 財源はあります

目黒区は23区で5番目の財政力があります。しかも、この数年、区税収入なども増えて予算規模が大きくなっています。加えて、区民負担増と福祉切り下げ、JR跡地の売却などで、積立基金を大きく増やしてきました。11年度末には135億円だった区の基金残高は、15年度末には323億5千万円へと188億円以上増え、2・

4倍にも膨らんでいます。(グラフ参照)
この財政力を生かし、1000人近い子どもが入所できない認可保育園の増設、青木区政の12年間まったく建設せず、800人近い待機者がいる特別養護老人ホームの整備など、区民の緊急課題に本気で取り組む区政へ切り替えましょう。



区長が「戦争法は憲法に基づく」

平和宣言しているのに...

目黒区は平和と憲法順守を誓った「平和都市宣言」を行っています。日本共産党は青木区長に対し、安保法制が自衛隊に戦闘地域での兵たん活動や米軍防護の武器使用まで行わせようとする、まさにアメリカが行う戦争に参戦するための憲法違反の戦争法であることを示し、その認識を問いました。

青木区長は「国会で成立した法律はすべて憲法に基づいている」などと述べ、事実上、合憲だと発言する始末です。

日本共産党目黒区議団

みなさんと力を合わせ実現!

国公有地を使った認可保育園、特養ホーム建設計画

国有地、都有地、旧第六中学校・旧第四中学校跡地、区役所駐車場、小学校内を活用した保育園や特別養護老人ホーム建設が実現。

認証保育園などの保育料補助

これまでの認証保育所の保育料補助に加え、ベビーホテルなどその他の認可外保育所にも対象が拡大。

介護人材確保のための補助

介護職員の確保を進めるために、区内で働く介護職員への借り上げ家賃助成を実現。

図書館資料費の増額

5年ぶりに図書購入費が、1000万円増額されます。

感震ブレーカー設置助成スタート

木造住宅密集地域の旧耐震基準の住宅に居住の高齢者・障がい者世帯を対象に、分電盤タイプの設置に助成制度が始まります。

雨水タンク設置助成始まる

雨水タンクは、家庭の水まき、ゲリラ豪雨・ヒートアイランド・震災対策にもなります。助成は上限5万6千円まで。



岩崎ふみひろ

区議会議員
目黒本町6-4-1-405
080-3424-1200



石川恭子

区議会議員
祐天寺2-19-15
080-3408-0027



森 美彦

区議会議員
東山1-12-11
090-1735-2792



松嶋祐一郎

区議会議員
八雲1-8-4
090-9880-4234



星見てい子

区議会議員
大岡山1-19-6
080-5680-4531

無料 法律・生活相談 困った時はいつでもどうぞ

●毎月第3木曜日午後2時～3時半 ●区役所5階日本共産党控室 ☎(3715)1111 (内)3030
●各区議地域でも随時行っています。お問い合わせ下さい。